

## 除染作業に朗報

放射性物質で汚染された土や水をきれいにする新装置を東芝が開発した、と12月26日に報道陣に公開した。

コンテナに積んで移動すること出来るもので、新装置は汚染土壌にシュウ酸を混ぜて放射性セシウムを分離し、その後に洗い流すことで97%の放射性セシウムを除去。これで学校の校庭の土を入れ替えないで済むという、全ての装置がコンテナ内に収まり、トラックの荷台に積んで移動出来る。1日に1.7トンの土壌を処理できるという。

また、放射能に汚染された水を浄化できる移動可能な新装置を開発。コンテナ1つ個分の装置で、25mプール1杯分の汚染水を飲料水のレベルまで浄化できるという、家屋の洗浄に使った水や農業用水等用途は広い。

そうすると汚染土壌の保管場所問題や汚染水の保管等の問題もなくなり、その場で全てが処理されるようになれば、除染作業は飛躍的に進展するはずだ。

原発先進国であるフランス・アレバ社製の汚染水処理装置がさっぱり機能しなかったが、その後に導入された東芝のサリ-は活躍しておりますから我が国の技術陣もやれば出来ることが証明されたわけで、今回の新開発も活躍するでしょう。そうすれば人件費も大幅に節約できるでしょうし、除染作業も大幅にスピードアップすることでしょう。



東芝工場内での製造・組み立て中、どんどん生産して、汚染地域で活躍してくれることを願っております。内部構造はサリ-の改良型のようなものです。

必要は発明の母であり、切迫すれば知恵はフル回転するものであって、今後更に改良型の製品が出てくるでしょう。きっと除染作業は大幅に前進します。

但し、処理費用が膨大になるらしい。